

教育センター通信

仮称

準備号2

平成25年7月23日

三条市小中一貫教育推進課

発行：教育センター

三条市の学校教育目標

未来を拓き、力強く生きるための「確かな学力」「豊かな心・個性」「健やかな身体」をもった三条っ子



小中一貫教育実施記念講演会で講演する天笠教授

巻頭言

小中一貫教育推進課長 高橋邦彦

小学校4年生の理科で「マイナス4度」を学ぶのに、小学校の算数科では負の数は扱いません。なぜでしょうか？

小学校の6年生の社会科の教科書には「奈良の大仏」について2ページにわたって記載されています。わざわざ大仏の造り方まで1ページを割いてイラストで描かれています。でも、中学校の歴史の教科書では、文章の中に「奈良の大仏」という言葉があるくらいで、記載はほとんどありません。なぜでしょうか？

小学校の分数のたし算の学習…結果を帯分数になおさせます。仮分数ではダメでしょうか。中学校では仮分数しか使わないのに…。なぜでしょうか？

小学校と中学校の教え方…一体何がどう違うのでしょうか。

小学校では実感を伴うことを、なによりも大切にしているように思います。

中学校では考えられる世界を対象にして学ぶことが、主になってくるように思います。

力をつけるもので、はじめから力がある人はいません。違いが分かると指導法が変わります。「小中一貫教育であなたの指導法はどう変わりますか？」「小学校と中学校を通して教材を見る目は十分ですか？」…少し面倒かもしれませんが、絶対に必要な教材観です。一緒に力をつけませんか。

小中一貫教育実施記念講演会を開催

5月28日、燕三条地場産業振興センター(リサーチコア)で、千葉大学天笠茂教授による講演会を開催しました。市内小中学校の教職員等、約200人の方々から出席いただきありがとうございました。



天笠教授は、「地域と学校で創りあげる小中一貫教育」を演題とし、小中一貫教育に関する歴史的な概要と国の動向等、小中一貫教育推進の第一人者として、教職員一人一人の心に思いを届けようと熱意にあふれるご講演をしてくださいました。

【講演の抜粋】

一貫教育という教育改革

☆小中一貫教育の構想は、いろいろな教育改革と連動することにより効果が上がる。小中学校教職員が一堂に会し、先生方や地域から、アイデアが出るかどうか勝負どころで、それを

実践する形に動きだせるかがポイントになる。

☆小中一貫教育の成否は、先生方のアイデア・創意工夫がやはり大きな鍵を握ってくることになりそうだ。小中一貫教育のシステムが整う中で、アイデアが出てくこと自体、このテーマの主体的・自律的なことと重なる。壮大な構想もあるが、掲示物について等も自分の思いの中から出てくるアイデアもあり得る。先生方一人一人がそれぞれの立場で出されたアイデアをつなげ、それをまとめるのが学校、あるいは中学校区になってくる。教育行政が環境を整え学校と呼応の関係をうまく作り出すことが、小中一貫教育成功のポイントになってくる。基本的には、小中一貫教育は教育委員会主導だが、バトンが次第に学校に渡されつつある段階に来ている。

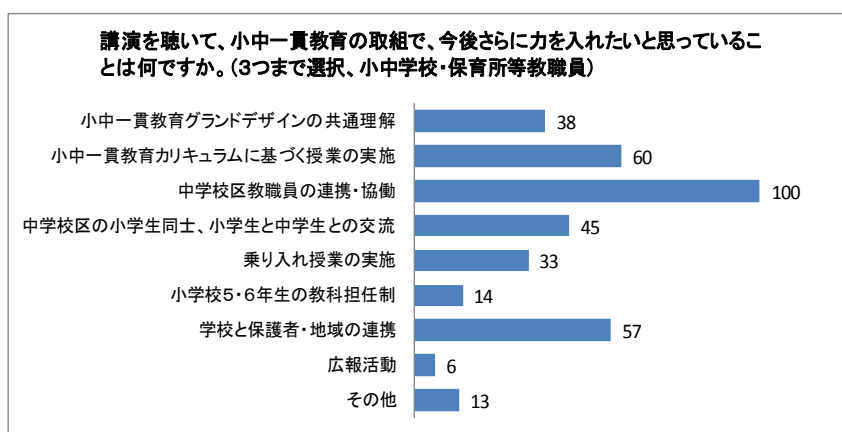
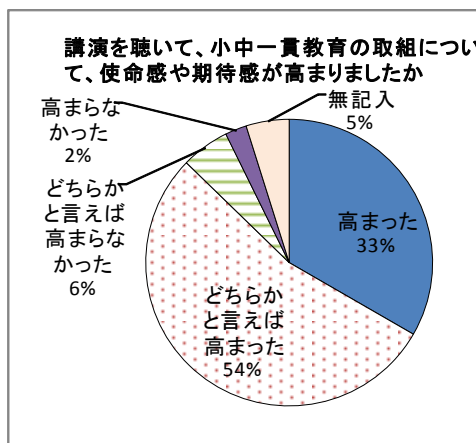
☆小中一貫教育に提起されたテーマ・課題を真摯に受け止めていく意欲と取組のプロセスが大きな意味を持つ。賛成・反対を含めた議論のやり取りや、議論をすること自体が大変貴重な営みで、双方が向かい合ったことが成果を生み出すことに寄与すると思う。

授業交流を通して小中一貫教育を〈課題とされた主体的・自律的な対応〉

☆学校、先生として自律的・主体的になれる転換点・テーマは授業だと思う。授業を一つの拠り所としながら、小学校と中学校の先生が関わりを持つことが大切になる。授業で小中の先生が繋がっていくことが、このテーマを内実のあるものにするには一番大切に思う。システムとして乗り入れ授業や複数の学年の合同授業が行われることが必要になる。授業を考えれば、(中学校教職員の)教材研究をしっかりとすることと、(小学校教職員の)子ども一人一人に寄り添う技術で、小中学校教職員が互いに足りないところを補い合うことが必要になる。それが小中一貫教育を進めるポイントになってくる。

地域とともに小中一貫教育を

小中一貫教育を今後展開するときに「地域とともに」が欠かせない。学校と地域の関係には3つのテーマ「協力、参加、参画」が考えられる。これまでも地域の「協力」を得てきた。それに「参加」が加わったのはここ10年ほどで進行中の関係。「参加」をキーワードに学校と地域との関係をつくっていけるかどうかテーマになる。地域の声をどう吸収・消化してエネルギーにしていけるか、そのマネジメントが中学校区単位に求められるのが今の段階だ。「参画」はコミュニティスクールに求められる。



参加者の感想

- ・小中一貫教育の型について、各中学校区の実践の多様性を認め、支えていただきたい。学校区の実態や教育的ニーズに即した一貫教育の在り方を創造してみたい。
- ・「小中一貫教育という教育改革」というキーワードが強く心に残りました。ぜひ実現させたいと思いました。
- ・教師一人一人の創意工夫、主体性、熱意の必要性、痛感しました。
- ・小中一貫教育に主体的、自律的に取り組むことに改めて気を入れようと思いました。
- ・全職員が参加するような研修会として位置付けてはいかがでしょうか。もったいないと思います。
- ・発想を柔軟にして、新しい視点で考えていく姿勢が必要と思いました。ありがとうございました。
- ・学校の独自性と中学校区の一貫性のバランスについて、今後の打ち合わせが重要と考えます。
- ・小中一貫教育が子どもたちの幸福につながっていくことを切に願っています。

新しい施設「かんきょう庵」で環境教育研修会を開催しました

6月7日、三条市環境啓発施設「かんきょう庵」を会場に、各校の環境教育担当者を対象に、各種

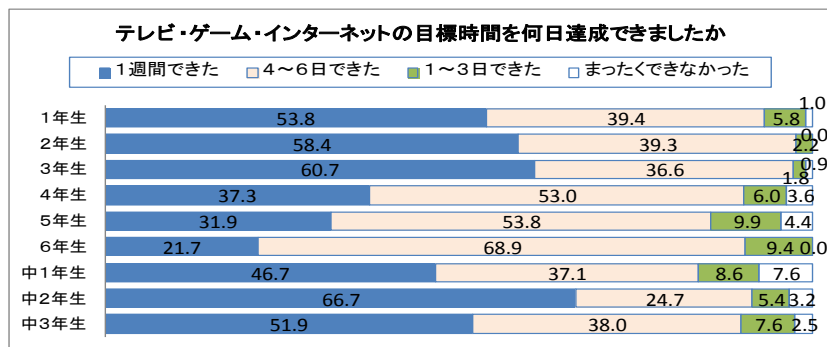


教育研修の一環として「環境教育研修」を開催しました。エコクラス等三条市が積極的に推進している環境政策の理解を深め、中学校区で一貫した環境教育の充実を図ることがねらいです。専門講師の「出前環境教室」は多様の環境学習プログラムの用意があり、総合学習で利用してはいかがでしょうか。

生活チャレンジ週間の取組…本成寺中学校区

本成寺中学校区は、平成23年度から生活習慣の向上にむけた「ノーディスプレイデー」に取り組み、今年度、名称を「生活チャレンジ週間」とし、下記の内容で、6月10日～16日に第1回の取組を実施しました。取組の状況と感想の一部を紹介します。

	小学校	中学校
個別目標	①テレビ、ゲーム、パソコン、携帯メール…1日2時間以内に、1週間チャレンジする。	①テレビ、ゲーム、パソコン、携帯メール…しない日を1週間のうち4日以上選ぶ。それ以外の日は1時間以内にチャレンジする。
共通	②早寝・早起きをし、睡眠時間を確保する。 ③朝食を毎日摂取する。	



- ※朝食は「毎日摂取」が95%程度、中学生は80%弱でした。
- ※上のグラフから4～6年生の1週間できた割合が目立ちます。
- ※この取組は各校の養護教諭が推進役となり、結果集計とその広報も担当し、特集号を発行する予定です。

感想

- ・ゲーム、テレビを見る時間がへって家族と会話の時間が増えてよかった。(小4年生)
- ・テレビとゲームを意識して頑張りました。土日は大変だったけど、外で遊ぶ時間が増えました。(小6年生)
- ・最近は朝ご飯をちゃんと食べているので、勉強も前より分かるような感じがします。(中2年生)
- ・自分で時計を見て頑張っていました。チャレンジ週間が終わっても続けてほしいです。(小3年生保護者)
- ・ほとんどテレビのついてない生活でしたが、自分からテレビを付けることがなかったので成長したなと思っています。(小5年生保護者)
- ・ノーテレビは家族で取り組まないと、なかなか難しいと改めて思いました。(中1年生保護者)

第1回新人研修・中堅研修を行いました

6月13日(木)に新人研修、14日(金)には中堅研修の第1回学習会を栄庁舎研修室で行いました。



新人研修では、子どもたちにとって魅力ある教師となるよう一層研鑽を積んでもらいたいとの話の後、授業づくりの基礎について研修しました。課題提示では、課題提示で終わるのではなく、その課題解決に向かおうとする子どもたちの意思形成までも含めて考えること(課題形成)、課題解決に向けた思考場面のある授業には、「質問」でなく「発問」が求められることなどについて、事例を踏まえて研修しました。

また、中堅研修では、日々の授業の充実を目指して取り組み、その成果を教育論文としてまとめることを示した後、テーマ設定の方法や研究計画の立て方等、教育研究の進め方について事例を基に研修しました。

次回の新人研修は7月30日(火)、中堅研修は31日(金)に予定しています。いずれも14:00開始です。

「いじめ見逃しゼロスクール集会」に工夫…大島中学校区

7月12日に大島中学校で、「いじめ見逃しゼロスクール集会」が行われました。「おおじまあったかるた」の取組は、昨年度は前もって各学校で優秀作品を選び当日発表しましたが、今回は当日句会を行って班ごとに優秀作を選びました。さらに、生徒会本部が事前にどうしたらいじめがなくなるか等のアンケートをとり、その結果を発表しました。この集会がマンネリ化しやすい中で、レベルアップを図った大島中学校区の先生方の意気込みを感じました。他に、小学6年生と中学1年生合同の「心と体の成長について」の講演会、部活動体験等の体験入学が行われました。その様子を紹介します。



県看護協会の遠藤さんが講師として、第二次性徴についてイラストを使って詳しく説明しました。事前の質問にもていねいに答え、「イライラするのも心の成長の1つ。自分自身をよく知って好きになろう」とエールを送りました。子どもたちは、自分がイライラする原因が少し分かってほっとしたようでした。



部活動体験は4つに限定し、事前に希望を把握。次回は別の部活を体験する予定です。



小6～中3の10班で、「おおじまあったかるた句会」をし、各自の句を並べ優秀な1句を選びました。なお、即興の句会は初の取組です。



班毎に句を発表。句をつかった人にどういう気持ちでつくったかインタビュー。これは6年生のインタビュー場面です。各学年の句が選ばれるとは、とても素晴らしいと思いました。

☆仲良しで 笑顔あふれる 大島区(小6)
☆くり返す あいさつとともに 増す笑顔(中1)
☆毎日が ずっと楽しい いいクラス(中2)
☆優しさで みんなの笑顔 広げよう(中3)

